

## IV 学校研究

### 1 研究主題 「主体的・協働的に学び、高め合う生徒の育成」 ～学習者主体となる授業づくりを通して～

#### <主題設定理由>

これまで、生徒の主体的・協働的な学びを促すため、教師の発話量が全体の4割以下、ICTを効果的に活用した生徒の活動量が6割以上となることを目指した授業実践を行ってきた。また、深める場面の充実を目指し、TC記録をとるなどして生徒の様子を見取り、それを生かした手立てを工夫してきた。その結果、学び合いの場面でのPCの活用が増え、教師の発話量、生徒の活動量の目標を達成することができた。しかし、深い学びにつなげるための発話、活動の質を高めることについては十分ではないという課題、また、端末を活用することはできているが、活用場面や方法について教師主体となっており、生徒自身が選択することが少ないという新たな課題も見えてきた。そこで今年度は研究主題を上記のように設定し、研究に取り組むこととした。

### 2 育成を目指す資質・能力

他者と協働的に学ぶ力（人間関係形成・社会形成能力）

### 3 めざす生徒の学びの姿

- ・他者の考えや立場を理解しようと努める
- ・相手の意見を聞いて、自分の考えを適切に表現する

### 4 研究仮説

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に授業に取り入れ、効果的にICTを活用していくことにより、学習者主体の授業づくりにつなげることができるであろう。
- (2) 教師のはたらきかけの質を高め、ICTを効果的に活用した生徒の活動量が6割以上となることを目指した授業実践を行うことにより、学びの質を高めるための生徒の活動量（思考量・対話量）を確保し、主体的・協働的な学びを促すことができるであろう。

### 5 研究の内容と手立て

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けての取組
  - ①単元デザインの中に、生徒自身が学び方や学ぶ内容を選択できる授業を位置付ける。実施後、良かった点、改善点をスプレッドシートに記録し、職員間で共有する。
  - ②生徒自身が学びの足跡を実感できるように、単元の中で適宜振り返りの時間を設け、学びを蓄積していけるようにするとともに、教師の授業改善に生かす。
  - ③単元の導入において、単元の学習計画を提示し、生徒とゴールを共有するようにする。
- (2) 生徒の活動の質、教師のはたらきかけの質を高める工夫
  - ①研究授業等で抽出生徒の授業記録（TC記録）をとることで、適切に生徒を見取る力を付け、生徒の活動、教師のはたらきかけの質の充実につなげる。
  - ②発話量分析シートを活用し、生徒の活動量の割合の他、ポイントとなる教師、生徒の発言、行動などの様子も記録していく。
  - ③「HAKUISM」を活用し、授業における効果的なICT活用方法を探究する。
- (3) 対話力の向上を目指す取組～対話の充実～
  - ①コミュニケーションスキルを向上させるために、月2回の対話タイム「羽トークタイム」を継続して行う。どの学年でも1分間トークができることを目指す。
  - ②「羽トーク」の話し合いの型やルールを授業中の対話に生かす。
  - ③話し合いが活性化するように、話し合いのリーダーを意識した意図的な座席配置やペア・グループづくりを全学年で統一して行う。
  - ④全学年、終学活にデジタル新聞等を活用した「ニュースの紹介」を取り入れる。

(4) 生徒会活動と連携した取組

「新・学習ルール 5 か条」や「パソコンルール 3 か条」の定着を図る。また、「学習オリエンテーション」や「学習ルール強化週間」、「学習環境チェック」などの取組を生徒会活動と連携して行うことで、生徒の声を生かし、学習規律に対する生徒の意識を高める。

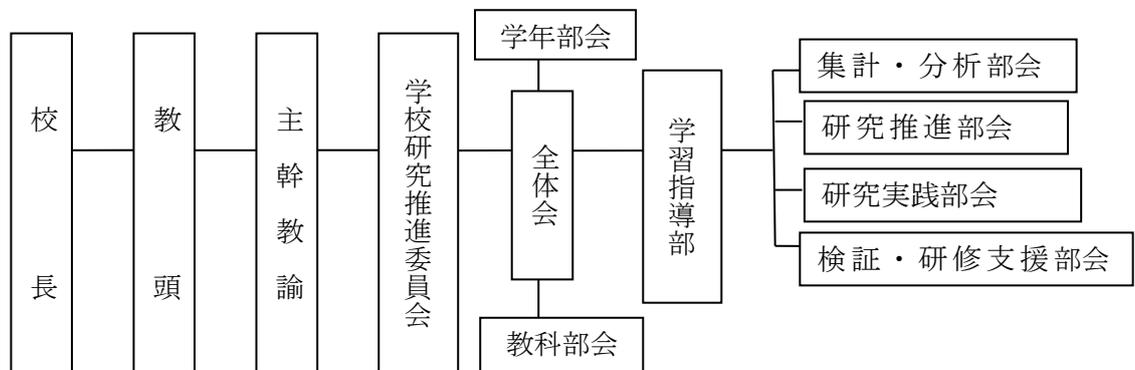
(5) 基礎・基本の定着

- ①「基本タイム」を活用して基礎・基本の定着を図る。
- ②朝の基本タイムに読書週間を設け、読書の習慣を付ける。
- ③毎日の 5 教科の課題で家庭学習の習慣化を図る。「宿題提出率 UP 作戦」や「自学ノートコンテスト」などの取組で家庭学習に対する意識の向上と内容の充実を図る。

## 6 検証方法

- (1) 研究授業の際などに授業記録 (TC 記録) を取り、生徒の様子を見取る。
- (2) 動画撮影した自分の授業を基に授業分析を行う。
- (3) 学校研究についてのアンケートを取り、定期的な検証や取組全体の検証を行う。

## 7 研究組織



(1) 学校研究推進委員会

- ・学校研究の基本方針の企画を行う。
- ・校内研修計画の立案，情報収集，理論の作成を行う。

(2) 学習指導部

- ・研究推進委員会の案について検討し，研修計画を練り上げる。

(3) 全体会

- ・研修計画に基づき，実践活動の推進のために全職員の共通理解を図る。

(4) 研究 4 部会

①集計・分析部会

- ・学校の目標を踏まえ，学力調査結果の集計・分析を行い，目標と現状との差から課題を明確にする。
- ・課題の原因を究明し，指導改善の方向性を示す。

②研究推進部会

- ・課題の克服や解決に向けて，実効性のある学力向上プランを作成する。

③研究実践部会

- ・学力向上プランを具体的・計画的に実行し，学校全体の指導力向上を図る。

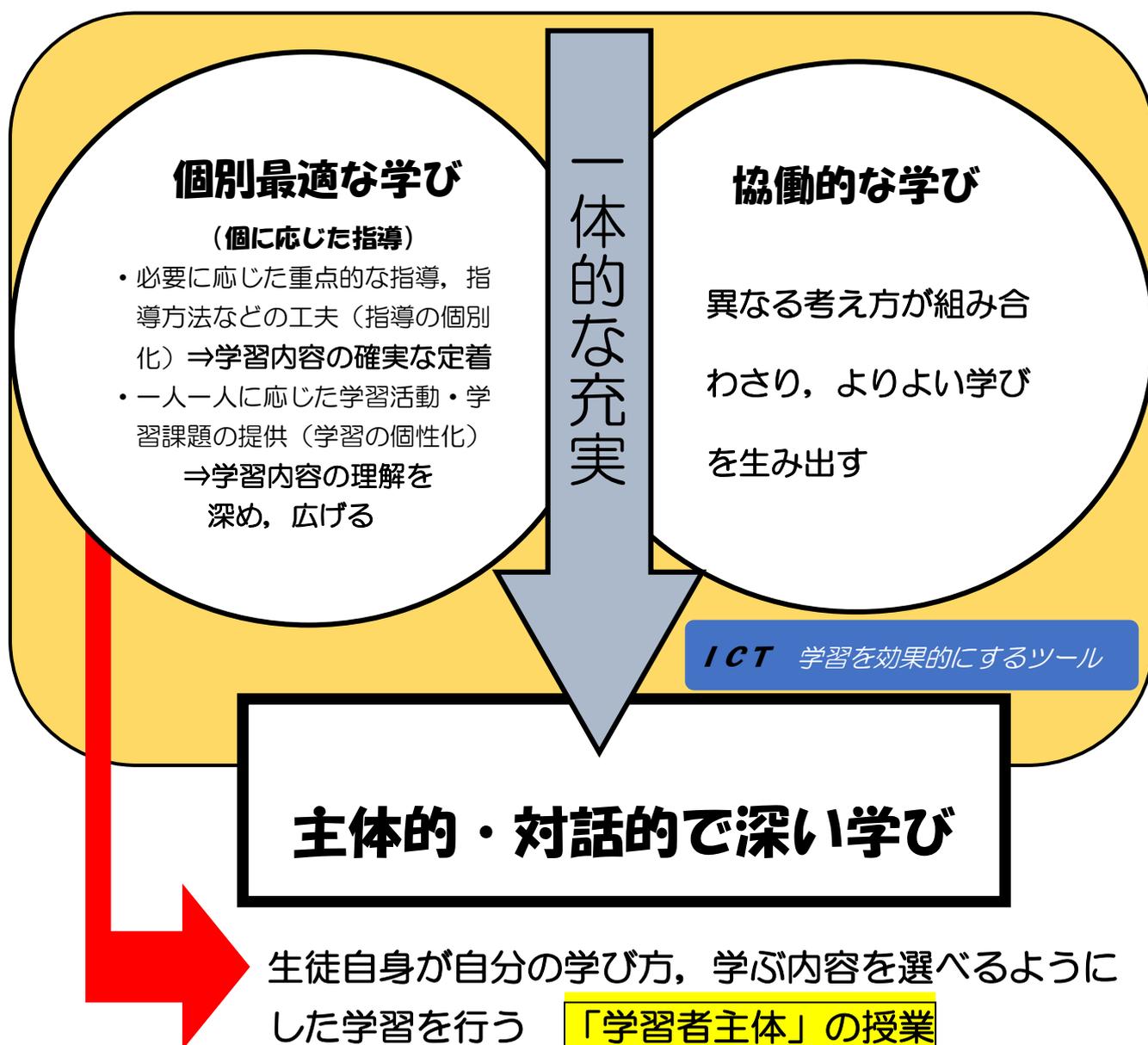
④検証・研修支援部会

- ・学力向上プランの実施状況について，定期的な検証や取組全体の検証を行う。
- ・計画的な O J T や検証結果を踏まえ，必要となる校内研修を適宜行う。

(5) 学年部会・教科部会

- ・研究主題にせまる指導方法や学習形態の工夫等の手だて及び重点を検討し，授業実践を通じて検証する。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実した  
「学習者主体」の授業づくりに向けて



<学習者主体の授業イメージ（羽咋中授業スタイル）>

<p><b>① つかむ</b></p>	<p>○学習の見通しの共有（単元の導入で） 学習計画（何時間扱いか、どういう内容があるかなど）と単元のゴールを共有する</p> <p>○解決したい課題を明確にする</p> <p>○その時間の主な内容や概念的なことを 全体の場で確認する</p>	<p>学びに意味を見いだす</p> <p>学びの動機付け</p>
<p><b>② 考える・広げる・深める</b></p>	<p>○個別最適な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた課題（発展・習熟・補充など）を選択して行う</li> <li>・個々のペースで課題に取り組む</li> <li>・学習内容を選択する</li> <li>・調べる方法を選択する</li> </ul> <p>個人で考える，ペア，グループで考える PCで考える など</p> <p>○協働的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働のタイミングや相手を自分で決める</li> <li>・班内で協働学習しながら，それぞれの班が自分たちの計画で，自分たちのペースで進めていく など</li> </ul> <p>○個に返り，みんなで考えたことや共有したことを自分で再構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ方を自分で選択する（ノート，スライドなど） など</li> </ul>	<p>「どのように学ぶのか」を生徒自身が考えることで 学びかたを身に付ける</p> <p>・人間関係形成 ・社会形成能力 ・課題対応能力</p>
<p><b>③ まとめる・振り返る</b></p>	<p>○学びを実感できる振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の言葉で本時の学習のまとめや，本時の学習の振り返りをおこなう</li> <li>・次につながる振り返りを求める（初めと比べて）できたこと，わかったこと，学んだこと，これから頑張りたいこと，もっと学びたいこと など</li> </ul>	<p>・単元のゴールに向かってどの位置にいるのか客観的に捉える</p> <p>・自分を見つめ，自己認識・自己発見する</p> <p>・自己調整能力を付ける</p> <p>・メタ認知力 ・自己モニタリング力</p>

